

\* 下記原稿は日中友好 99 人委員会から依頼された。同委員会は、日中友好と国交回復に尽力された周恩来の精神を次代に伝えるため、1998 年 12 月東京で設立された。

## 日中友好99人委員会

### 周恩来に見る国際主義的精神

大類善啓（方正友好交流の会 事務局長）

都心の大きい書店に行けば、嫌中感情や反中感情を煽るような書名の本が、溢れるように平積みされている。中国では江沢民指導による「愛国教育」の影響もあり、「9・18を忘れるな」、といった9・18歴史博物館の展示構成に見られるように、反日感情を醸成する雰囲気はまだ残っている。そういう状況を見て思い起こすのは、瑞々しい国際主義的な友愛精神が躍動していた1940年代から50年代にかけての、中国共産党指導部の思想と行動であり、とりわけ周恩来の役割である。

もちろん周恩来にしても、鄧小平が周の文革時代の行動を弁護して、「心にもないことを言った」面がなかったわけではない。しかし、あの困難な中で、どれだけ多くの人たちの命を周恩来が救ったことか。その例をまた身近なところで知ることができた。

ハルビン市郊外の方正県に、開拓民たちを祀った日本人公墓がある。残留婦人の松田ちゑさんの思いから生まれ、周恩来総理の許可で1963年に建立されたが、松田さんは文革中にスパイ容疑で3年間獄中に閉じ込められた。最終的に容疑が晴れて無事釈放されたが、その裏にはやはり、周恩来総理が関わっていた。それが明らかになったのは2006年、35年も経ってからのことである。今、東京に住む松田ちゑさんの長男である崔鳳義さんが、久しぶりに方正県に帰ったところ、退職した元・公安職員がその真相を明らかにしてくれた。

松田さんに対する判決は死刑だった。松田さんへの容疑は、日本人公墓建立に主導的な役割を果たしたことも大きかった。しかし判決は、松田さんが日本人故、国際刑事判決に関わるため中央の決定を待たなければならず、最終的にその書類は周恩来総理のもとに回された。

記憶力が抜群に良かった周恩来は、松田ちゑさんが、日本人公墓建立を願った婦人であることを、しっかりと覚えていたのである。周恩来は、松田さんに被せた罪名は何の根拠もないことを見てとり、直ちに「無罪、即時釈放」するよう指示した。その指示書は県政府に送付された。てっきり死刑を容認した書類だと思って開封した公安職員は、「無罪、即時釈放」の書面に驚いた。これは間違いではないかと、もう一度省政府に尋ねたところ、間違いはない。周総理の指示であることが再度確認され、1971年11月釈放されたのだった。

この7月、撫順戦犯管理所を初めて訪れた。収容された日本軍人たち969人は、陸軍の師団長クラスや「満州国」の高級官僚、二等兵たちだった。職員よりも食事などの待遇を良くし、バスケットボールや将棋をし、映画を見たり芝居などをして過ごした「獄中生活」は、鬼とも言われた傲岸不遜の日本軍人たちをして、初めて自己の罪業を反省する契機になった。

肉親を彼らに殺された看守や職員たちは、なぜそんなに彼らを優遇するのか、と中央に疑問を突きつけた。それに対して当時の中国共産党指導部は、「戦犯といえども人間である。人間である以上、その人格を尊重しなければいけない」との方針を伝えた。そして強制労働もなく、入浴も理髪も定期的に行われた。周恩来は、20年後を見ればわかるだろう、と語ったという。彼ら旧軍人は、6年後、起訴免除・即日釈放という決定を受けた。帰国後、その多くは日中友好運動に積極的に携わった。狭隘なナショナリズムがはびこる日中の動きを思うにつけ、新中国建国前後の中国指導者の精神と行動を改めてかみしめたい。